

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム かぐや姫
所在地	愛媛県西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成22年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 10月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・併設のデイサービスの利用が自由に出来る。
・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリの対応が早い。
・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。
・月1回、ボランティアによる音楽療法を実施。
・月2回、同じ法人のGHとの交流会を実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から6年を経過した事業所で、職員の異動を最小限に抑える等、利用者が落ち着いた環境の中で生活することができるよう配慮されている。利用者の重度化にともない、次第に医療との関わりが多くなっているが、関係する医療機関とは良好な関係が構築され利用者や家族も安心して居る。幼稚園や高校等の学校とも交流があり、学校行事やPTA活動との連携も行う等、地域にも根差した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 かぐや姫

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏 名 小玉 弘美

評価完了日 22 年 9 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携を密にしたかぐや姫独自の理念もあり、又、各階の理念もある。勉強会や毎朝の申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 開設時に作成した理念を勉強会や申し送りで、共有しながら実践できるよう取り組んでいる。また、各ユニットで目標を掲げ、より身近なものとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け、参加してもらっている。	
			(外部評価) 母体病院が地域に根ざした運営を行っており、事業所も地域との繋がりは強い。近くの保育園、小・中・高の学生との交流の機会もあり、学校の要望で職員が認知症について話をすることもある。地域の奉仕活動だけでなく、ホームの行事への呼びかけも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 小学校、消防署、職員など新たに構成メンバーを増や し、ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多 くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映し ている。	
			(外部評価) 同系列のグループホームと合同で開催している。利用 者や家族、市職員、民生委員、小学校の先生や地域の 住民、消防士等多彩な参加者を得て、病院や事業所の 職員も参加し、利用者のサービス向上のために具体的 な話し合いが行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、市役所の保健福祉課との情報 交換は行っている。今後も共同関係ができるように担 当者と会う機会を増やしていきたい。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの担当者と相談や意見交換 等、連絡を取りあう体制ができており、必要に応じて 指導や助言を受けている。市の職員は運営推進委員会 に出席してホームの実状を把握してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理 解と認識を図っている。身体拘束は行っていない。昼間 は施錠していないが、夜間は一人での対応となるので、 やむをえず施錠しなければいけない必要に迫られる時 がある。	
			(外部評価) 身体拘束防止について研修会に参加したり、勉強会を 開催する等積極的に学んでいる。各利用者の行動パ ターンを把握しており、日中は職員が対応しているた め玄関等の施錠はしていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表情に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち、反映させている。 (外部評価) 家族の面会時に情報交換できるよう心掛けている。家族の要望は職員間で共有したうえで検討し、できるだけ早く反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。必ず年1回の面談を実施している。又、必要時は職員の意見を聞く場を設けている。 (外部評価) 月1回の定期的な会議で意見が出しやすいような雰囲気作りに努め、要望や意見を聞く機会を設けている。施設長は年1回職員と面談を行うようにしている。職員の意見はできるだけ運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給をつける、精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、施設内の研修を実施している。施設外研修は、希望を聞き、年間の研修に全職員が最低でも2～3回は受講できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市グループホームに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるか、家族の気持ちになって受け止めようと努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多く持ち、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参り、地域の行事などに参加し、継続した支援を行っている。 (外部評価) 友人宅への訪問や墓参り、買い物や馴染みの理美容院の利用等を支援している。地域の行事、特に学校の運動会やお祭り等は利用者の座席を準備してくれている。地域の奉仕活動は可能な範囲で参加している。また、デイサービス利用者との相互交流も自由に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院の場合は続けて様子伺いに行っている。他の施設や在宅に帰られた方は、時々、様子伺いを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 意思表示ができる利用者は、できる限り簡潔で多彩な選択肢を用意し、自分で選んでもらえるよう工夫している。意思表示の困難な方は、過去の生活の中で得た情報や家族の協力を得ながら支援している。利用者は最後まで当ホームを利用したいと言われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常会話の中で、これまでの暮らしを知る事ができる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、出来ること、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞いて反映させるようにしている。	
			(外部評価) 担当者や各ユニットのリーダー、ケアマネジャーが主となり、本人や家族の意向を把握している。カンファレンスで評価し、3か月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設デイサービスの利用、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館、図書館などの施設を利用する事はある。月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に数回、幼、小、中学校との交流会がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。必要時には、訪問診察に来てもらっている。併せて、職員も積極的に医療に関する研修に参加している。 (外部評価) 希望するかかりつけ医への受診が円滑に行えるよう往診送迎を含め支援している。医療の必要度が増しているため、職員は医療に関する研修に積極的に参加している。近くに婦人科の診療機関が無いと、家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職がいない為、併設病院の看護師との連携がとれる体制が確保されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしながら退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあたっている。順次、職員は医学的知識が身につくように研修に参加している。 (外部評価) 重度化した時は、かかりつけ医や関係者、関係機関と連携を図りながら対応している。マニュアルを作成し、家族とも対応を協議している。職員の技術力向上のために積極的に研修に参加している。	施設外研修に参加して重要性を確認しているが、施設内でも具体的な研鑽の機会を計画し、取り組むことを期待したい。今後の終末期の経験を振り返り、よい支援に繋げていくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。又、運営推進会議で議題に取り上げ、意識向上に努めている。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回の訓練を実施し、夜間の想定での訓練もしている。地域の協力の必要性があり、検討を進めている。	 訓練後の具体的な評価を行い、次回につなげることを期待したい。また、お願いするだけでなく、運営推進委員会やご近所の方々との相互協力体制の検討を希望したい。備蓄の確保についても検討を希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わりかた、声の掛け方など、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者を大切な人として、声かけや接する態度に十分配慮しながら日々のケアを行っている。利用者一人ひとりの性格や行動を把握し自然体で接することができるよう日々、心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1人1人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、1人1人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでのいきつけの美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 敷地内の畑で採れた旬な野菜を入居者と共に収穫し、食材にしている。盛りつけにも彩りを工夫されている。 (外部評価) 利用者一人ひとりのできることに応じて、職員と共に準備や片づけを無理なくしてもらっている。献立は栄養士が立て、事業所の職員が利用者の状態を考慮して作っている。利用者と職員は一緒に食べながら、さりげなく支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。トロミ剤を使用、ミキサー食、キザミ食にするなど、摂取状態に合わせて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 個人の排泄パターンを把握しており、一人ひとりに合った支援をしている。トレーニングパンツの使用者は多いが、昼間はトイレ誘導を行い排泄している。便の調整も食事や水分補給で自然に行えるよう工夫し、状況に応じて薬で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり、水分を多く飲用してもらうようにしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。	
			(外部評価) 本人の希望で対応している。入浴を嫌がる利用者もいるが、タイミングを見ながら支援している。週に2～3回の入浴ができるよう支援している。ゆっくりと背中を流したり、コミュニケーションを取りながらゆったり入浴してもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝をしたり、話に付き合う等している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを管理し、職員が内容を把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の出来ること、楽しみなど、能力を発揮出来るような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。手作り弁当やおやつを持って外出したり外食する機会もある。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。	
			(外部評価) お弁当持参でドライブに行ったり外食を楽しんだりしている。また、家族の協力を得て、自宅に帰りゆっくりと家族との時間を過ごすこともある。一人で散歩に行く利用者もあり、職員は外出傾向を把握し利用者一人ひとりに合った外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。買い物の際は本人にお金を持たせ支払いをしてもらおう。本人、家族の希望があれば、ホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話が出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、花を飾ったり壁面を工夫し、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) ゆったりとした空間で、機能的な家具の配置になっている。トイレや洗面所、浴室等必要な場所には手すりが設置してあり、安全に移動ができるようにしている。窓からの景色、壁面の飾り、室内の花や木等で季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子や畳のスペースもあり、利用者同士がくつろげるような居場所や環境づくりをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) ベッドは備え付けてあるが、馴染みの物や好みのものをそれぞれに持ち込んでいる。位牌・鏡台・写真・タンス・衣装ケース・椅子とテーブル等を配置している。季節の衣類の交換は家族の協力で実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人1人の能力を見極め、状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム かぐや姫
所在地	愛媛県西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成22年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 10月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・併設のデイサービスの利用が自由に出来る。 ・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリの対応が早い。 ・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。 ・月1回、ボランティアによる音楽療法を実施。 ・月2回、同じ法人のGHとの交流会を実施。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から6年を経過した事業所で、職員の異動を最小限に抑える等、利用者が落ち着いた環境の中で生活することができるよう配慮されている。利用者の重度化にともない、次第に医療との関わりが多くなっているが、関係する医療機関とは良好な関係が構築され利用者や家族も安心して居る。幼稚園や高校等の学校とも交流があり、学校行事やPTA活動との連携も行う等、地域にも根差した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

かぐや姫

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

小玉 弘美

評価完了日

22 年 9 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携を密にしたかぐや姫独自の理念もあり、又、各階の理念もある。勉強会や毎朝の申し送り等で理念にふれ、意見の統一を図りながら実践につなげている。	
			(外部評価) 開設時に作成した理念を勉強会や申し送りで、共有しながら実践できるよう取り組んでいる。また、各ユニットで目標を掲げ、より身近なものとしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼・小・中学生との交流の機会がある。地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声を掛け、参加してもらっている。	
			(外部評価) 母体病院が地域に根ざした運営を行っており、事業所も地域との繋がりは強い。近くの保育園、小・中・高の学生との交流の機会もあり、学校の要望で職員が認知症について話をすることもある。地域の奉仕活動だけでなく、ホームの行事への呼びかけも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から、認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 小学校、消防署、職員など新たに構成メンバーを増やし、ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。	
			(外部評価) 同系列のグループホームと合同で開催している。利用者や家族、市職員、民生委員、小学校の先生や地域の住民、消防士等多彩な参加者を得て、病院や事業所の職員も参加し、利用者のサービス向上のために具体的な話し合いが行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、市役所の保健福祉課との情報交換は行っている。今後も共同関係ができるように担当者と会う機会を増やしていきたい。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの担当者と相談や意見交換等、連絡を取りあう体制ができており、必要に応じて指導や助言を受けている。市の職員は運営推進委員会に出席してホームの実状を把握してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と認識を図っている。身体拘束は行っていない。昼間は施錠していないが、夜間は一人での対応となるので、やむをえず施錠しなければいけない必要に迫られる時がある。	
			(外部評価) 身体拘束防止について研修会に参加したり、勉強会を開催する等積極的に学んでいる。各利用者の行動パターンを把握しており、日中は職員が対応しているため玄関等の施錠はしていない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 順次、研修会に参加し勉強している。現在は、制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表情に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち、反映させている。 (外部評価) 家族の面会時に情報交換できるよう心掛けている。家族の要望は職員間で共有したうえで検討し、できるだけ早く反映できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図るように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。必ず年1回の面談を実施している。又、必要時は職員の意見を聞く場を設けている。 (外部評価) 月1回の定期的な会議で意見が出しやすいような雰囲気作りに努め、要望や意見を聞く機会を設けている。施設長は年1回職員と面談を行うようにしている。職員の意見はできるだけ運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給をつける、精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、施設内の研修を実施している。施設外研修は、希望を聞き、年間の研修に全職員が最低でも2～3回は受講できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市グループホームに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるか、家族の気持ちになって受け止めようと努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けた支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多く持ち、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参り、地域の行事などに参加し、継続した支援を行っている。 (外部評価) 友人宅への訪問や墓参り、買い物や馴染みの理美容院の利用等を支援している。地域の行事、特に学校の運動会やお祭り等は利用者の座席を準備してくれている。地域の奉仕活動は可能な範囲で参加している。また、デイサービス利用者との相互交流も自由に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院の場合は続けて様子伺いに行っている。他の施設や在宅に帰られた方は、時々、様子伺いを行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 意思表示ができる利用者は、できる限り簡潔で多彩な選択肢を用意し、自分で選んでもらえるよう工夫している。意思表示の困難な方は、過去の生活の中で得た情報や家族の協力を得ながら支援している。利用者は最後まで当ホームを利用したいと言われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接時、家族、本人から聞き把握している。又、面会者の話や日常会話の中で、これまでの暮らしを知る事ができる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、出来ること、分かる力を生活の中で見つけていく事に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞いて反映させるようにしている。	
			(外部評価) 担当者や各ユニットのリーダー、ケアマネジャーが主となり、本人や家族の意向を把握している。カンファレンスで評価し、3か月毎に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設デイサービスの利用、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 公民館、図書館などの施設を利用する事はある。月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に数回、幼、小、中学校との交流会がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診を行っている。 必要時には、訪問診察に来てもらっている。併せて、 職員も積極的に医療に関する研修に参加している。 (外部評価) 希望するかかりつけ医への受診が円滑に行えるよう往 診送迎を含め支援している。医療の必要度が増してい るため、職員は医療に関する研修に積極的に参加して いる。近くに婦人科の診療機関が無い場合、家族の協 力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職がいない為、併設病院の看護師との連携がとれ る体制が確保されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換を しながら退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケア にあたっている。順次、職員は医学的知識が身につく ように研修に参加している。 (外部評価) 重度化した時は、かかりつけ医や関係者、関係機関と 連携を図りながら対応している。マニュアルを作成 し、家族とも対応を協議している。職員の技術力向上 のために積極的に研修に参加している。	施設外研修に参加して重要性を確認しているが、施設 内でも具体的な研鑽の機会を計画し、取り組むことを 期待したい。今後の終末期の経験を振り返り、よい支 援に繋げていくことを期待する。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。又、運営推進会議で議題に取り上げ、意識向上に努めている。 (外部評価) 消防署の協力を得て年2回の訓練を実施し、夜間の想定での訓練もしている。地域の協力の必要性があり、検討を進めている。	 訓練後の具体的な評価を行い、次回につなげることを期待したい。また、お願いするだけでなく、運営推進委員会やご近所の方々との相互協力体制の検討を希望したい。備蓄の確保についても検討を希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わりかた、声の掛け方など、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者を大切な人として、声かけや接する態度に十分配慮しながら日々のケアを行っている。利用者一人ひとりの性格や行動を把握し自然体で接することができるよう日々、心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1人1人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場面を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、1人1人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでのいきつけの美容院に行かれている。個性を尊重した、身だしなみができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 敷地内の畑で採れた旬な野菜を入居者と共に収穫し、食材にしている。盛りつけにも彩りを工夫されている。 (外部評価) 利用者一人ひとりのできることに応じて、職員と共に準備や片づけを無理なくしてもらっている。献立は栄養士が立て、事業所の職員が利用者の状態を考慮して作っている。利用者と職員は一緒に食べながら、さりげなく支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。トロミ剤を使用、ミキサー食、キザミ食にするなど、摂取状態に合わせて対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 個人の排泄パターンを把握しており、一人ひとりに合った支援をしている。トレーニングパンツの使用者は多いが、昼間はトイレ誘導を行い排泄している。便の調整も食事や水分補給で自然に行えるよう工夫し、状況に応じて薬で行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり、水分を多く飲用してもらうようにしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望があれば、曜日、時間を変更した対応をしている。	
			(外部評価) 本人の希望で対応している。入浴を嫌がる利用者もいるが、タイミングを見ながら支援している。週に2～3回の入浴ができるよう支援している。ゆっくりと背中を流したり、コミュニケーションを取りながらゆっくり入浴してもらえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を準備したり、寝つけない時には添い寝をしたり、話に付き合う等している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋のコピーを管理し、職員が内容を把握出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の出来ること、楽しみなど、能力を発揮出来るような場面づくりや、何か役割のある生活が送れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。手作り弁当やおやつを持って外出したり外食する機会もある。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。	
			(外部評価) お弁当持参でドライブに行ったり外食を楽しんだりしている。また、家族の協力を得て、自宅に帰りゆっくりと家族との時間を過ごすこともある。一人で散歩に行く利用者もあり、職員は外出傾向を把握し利用者一人ひとりに合った外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。買い物の際は本人にお金を持たせ支払いをしてもらう。本人、家族の希望があれば、ホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話が出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、花を飾ったり壁面を工夫し、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) ゆったりとした空間で、機能的な家具の配置になっている。トイレや洗面所、浴室等必要な場所には手すりが設置してあり、安全に移動ができるようにしている。窓からの景色、壁面の飾り、室内の花や木等で季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子や畳のスペースもあり、利用者同士がくつろげるような居場所や環境づくりをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) ベッドは備え付けてあるが、馴染みの物や好みのものをそれぞれに持ち込んでいる。位牌・鏡台・写真・タンス・衣装ケース・椅子とテーブル等を配置している。季節の衣類の交換は家族の協力で実施している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人1人の能力を見極め、状態変化に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。	